【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成23年11月17日(2011.11.17)

【公開番号】特開2007-75623(P2007-75623A)
【公開日】平成19年3月29日(2007.3.29)
【年通号数】公開・登録公報2007-012
【出願番号】特願2006-263350(P2006-263350)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｌ　31/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/407　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/337　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　45/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/365　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/42　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/34　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　9/10　(2006.01)
Ａ６１Ｆ　2/82　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｌ　31/00　Ｂ
Ａ６１Ｋ　31/407
Ａ６１Ｋ　31/337
Ａ６１Ｋ　45/00
Ａ６１Ｋ　31/365
Ａ６１Ｋ　47/42
Ａ６１Ｋ　47/34
Ａ６１Ｐ　43/00　１１１
Ａ６１Ｐ　9/10
Ａ６１Ｍ　29/02

【誤訳訂正書】
【提出日】平成23年9月22日(2011.9.22)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１３】
本発明はまた、標的細胞への治療剤の持続放出（徐放）を包含する治療法及び治療投与形にも関する。好ましくは、標的細胞は、血管平滑筋細胞、癌細胞、疾病状態を緩らげるために調整を必要とする体細胞、及び投与形の局部投与により接近できる、免疫系－介在の疾病に包含される細胞である。結果的に、本発明のこの観点の方法及び投与形は、細胞の活性（たとえば増殖、収縮、移動、又は同様のもの）を阻害するが、しかし血管平滑筋細胞結合タンパク質を殺さない治療剤を用いて、哺乳類宿主における血管平滑筋細胞を阻害するために有用である。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１７
【訂正方法】変更

【訂正の内容】
【００１７】
もう１つの態様において、ステント、たとえば生物分解性ステントはまた、ステントマトリックスに含浸された治療剤も有することができる。治療剤の徐放性投与形態を含んで成る、生成分解性被膜、又は多孔性又は非生物分解性被膜によりさらに被覆される、ステントに含浸される治療剤を有する生物分解性ステントの使用にも関する。本発明のこの態様は、治療剤の示差開放速度を付与し、すなわち被膜からの治療剤の早い開放、続いてステントマトリックスの分解に基づいてそのステントマトリックスに含浸される治療剤の遅延された開放が存在する。